二〇一五年七月二一日（参加者一六名）

白鷺を毳立てゝ過ぐ青田風　うつぎ
樹下涼しマンモグラフィー検診車　うつぎ
夕焼にひとり降りたつ島のバス　うつぎ
ドライミスト降らす天窓日の盛り　うつぎ
夙川堤いゆくかぎりに蝉時雨　菜々
風薫る延命地蔵に供花あまた　菜々
葦の間に鼻筋たてて鷸現るゝ　菜々
水脈に水脈重ねて涼し夫婦鴨　菜々
水墨の一幅めきて滝涼し　宏虎
日の匂ふ地産のトマトまるがじり　宏虎
走り根に褥と積みし夏落葉　宏虎
さながらに寂光浄土蓮の池　宏虎
緑陰の古社に一礼園児どち　小袖
夏空を射抜かんと立つ天狗杉　小袖
網逃れては高舞へる揚羽蝶　小袖
句碑めぐる神苑の杜蝉時雨　よし子
浜に散るラジオ体操海開き　よし子
フレンチの店の天窓青葉揺る　明日香
鮎の瀬の等間隔に竿並ぶ　明日香
蒲の穂の揺らぐは鯉の仕業かな　わかば
蒲の穂の揺れて薄ら日はじきをり　わかば
吟行に誘ひの電話梅雨明くる　よう子
あるはずの豆腐を探す冷蔵庫　よう子
涼風の通ふ四阿去りがたく　ひかり
蝉時雨ぱたりと止みし亭午かな　ひかり
なで肩の女塚たつ木下闇　せいじ
万緑の山に傾く電車かな　満天
航跡の縦横無尽瀬戸涼し　えむ
長蛇なす貨物列車の暑さかな　ぽんこ
公園の柵に夏帽忘れもの　こすもす
牛蛙一と声句座の和みけり　有香

定例句会みのる選

二〇一五年七月二一日（参加者一六名）